非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

第 22 号

〒113-0001 東京都文京区白山 1 - 31 - 9 小林ビル 3 階

Tel:080-5520-3077 E-mail:npj@peace.biglobe.ne.jp

Fax:03-5684-5870 Website:http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/

2008 年 4 月 8 日発行

巻頭言

韓国 NP の活動に学ぶ

NPJ/NPC 第 3 回交流会議（於：ソウル、NPC 事務所）

2008 年 3 月 22 日 15：00-22：00

理事：奥本京子・事務局長　安藤博

出席者：ＮＰＣからは、パク・ソンギョン（共同代表）、キム・ソクポン（事務局長）、ほか 6 人、ＮＰＪからは安藤博（事務局長）、奥本京子（理事）、さらに、ＮＰからエレン・フルナリ（ジャン・パッションの配偶者でスリランカ・プロジェクトの評価オフィサー）、そして、西岡文弘（非会員、ソウルに留学中）

2006 年 11 月のソウルでの第 1 回交流会議、2007 年 8 月の関西での第 2 回交流会議にひきつづき、第 3 回目の会議が和気あいあいとした雰囲気の中で、ソウルのＮＰＣ事務所にて開催された。まず、30 分ほどＮＰＣからの報告があり、その後、ＮＰＪからの報告、次に、フルナリ氏からのスリランカについて

巻頭言　韓国 NP の活動に学ぶ　NPJ 理事　奥本京子・事務局長　安藤博・・・1
トリンコマリーより皆様へ　スリランカ FTM　徳留由美・・・ 4
トリンコマリー・チーム活動の紹介　NPJ 理事　大橋祐治・・・6
NP ミンダナオ・プロジェクト　NP 国際理事　阿木幸男・・・8
ふくしま非暴力平和隊ネット　NPJ 監事　鞍田東・・・10
北九州市「非暴力による平和創造を考える」会報告　会員　川辺希和子・・・11
NPJ2007 年度決算、2008 年度予算　大橋祐治・・・12
NPJ 中期計画私案、次期理事会に向けて　安藤博・・・14
NPJ 第 6 回総会議事録　大橋祐治・・・16
会員寄稿　森田留美・・・ 17
＜9 条世界会議＞　硬軟を使い分けて　安藤博・・・18
NPJ ワークショップ「紛争地で活かす 9 条」　安藤博・・・20
9 条ピースウオークについて　NPJ 理事　浅見靖仁・・・22

などの報告があった。質疑応答を経て、歓迎の食事をいただき、パク、安藤、フルナリ、奥本のみ事務所に戻ってさらに22：00頃まで会議を続け、その後、残りのメンバーによって夕食から続いていた懇親会へと流れ込むという形であった。

★　韓国NPのメンバーと　★

当報告では、ＮＰＣが行っている活動などについて、ＮＰＪ会員の皆様にお知らせすべく叙述することとする。ＮＰＣ事務所の向かいの教会で毎月行われているピース・フォーラム、ピース・ツアー、年度末総会、毎年の行事となりつつある(2007年度は第3回目)7・27 平和の船イベント、それに伴う子どもたち対象のピース・キャンプ、政府などの政策に提言するためのシンクタンク・フォーラム、2007年8月に日本・関西で開催されたＮＰＪとの交流ツアー、春と秋に8週間ずつ開催する非暴力平和アカデミー、クリスチャン・ピースワーカー・キャンプ、ＮＰＣを含め５つの団体によって3日間連続で開催され、次年度への提案をする平和活動家のワークショップ、反戦のための東アジア平和会議、フォトジャーナリスト、李時雨（イ・シウ）氏の釈放活動、ナイロビでのＮＰ総会への参加、2008年1月に第１回（Level 1）を開催し、40名ほどが参加した、ＡＶＰ（Alternative to Violence Project）ワークショップ（このプログラムはこれから3年間のトレーニングを引き続き開催することでトレーナーを育成するもの）など、多岐にわたるものであった。さらに、今年の4月末から5月初旬にかけて、1週間の Nonviolent Direct Action のトレーニングを計画しており、米国から非暴力直接行動のトレーナーとしても名高いジョージ・レイキーとダニエル・ハンターの両氏を招待することになっている。

現在、ＮＰＣには130名のサポーターがいて、設立から5年がたったところである。ＮＰＣ以外にもたくさんのＮＧＯが存在する韓国において、ＮＰＣ独自の今後の計画（ビジョン）としては、以下をあげている。

１．　ＮＰＣのミッションとアイデンティティを再度確認・強化する
２．　ＮＰのミッションと仕事について、ＮＰＣへ導入する
３．　平和ＮＧＯや平和活動家の能力開発を手助けする
４．　地域の市民による平和運動(特にハンガン地域における)にとっての新しいモデルを指導する
５．　東アジア平和共同体構築のために、さらにＮＰＪと連携し共生プログラムを構築する

加えて、2008年度のＮＰＣの総会においては、「Training Institute for Nonviolence

and Peace」を設立することを決定したという。その非暴力と平和のための訓練研究所では以下のことを計画しているという。

＊ トレーナーのトレーニング
＊ ガンジーのビジョンであったシャンティセーナ（市民の平和の力）を徐々に実現する
＊ トレーニング・モデルを開発する：学習、トレーニングの応用、出版
＊ 個人的・共同体的生活における、現実的で具体的な変化をもたらす
＊ ソフト・プログラムによる平和の村を創造する
＊ 国家レベルの平和の仕事をエンパワーし、市民の中に平和を還元する

ＮＰＣが何かを企画するとき、130 名のサポーターのうち、いつも 15-25 人くらいが参加するという。そのうち、大部分はレギュラーメンバーであるらしい。ＮＰＣもＮＰＪと同じく、大勢が集まってどんどん活動が広がっていく・・・というわけには行かない現実があるが、大変に前向きな姿勢で積極的に企画し展開していっている姿に感銘を受けたしだいである。

さて、ＮＰＣの報告の後に、ＮＰＪからは安藤氏によって 30 分ほど報告された（内容については、日ごろのＮＰＪニュースレターや今回の総会報告などに掲載されるので割愛することとする）。次に、休憩を入れずに、エレン・フルナリ氏からＮＰＩのミッションについて、活動について、また、ＮＰスリランカについての報告を受けた。ＮＰＩの仕事とは、外部の大きな暴力に比較してみると小さく映るかもしれないが、さまざまな平和を希求する重要な「声」を市民レベルから政府レベルに、徐々に、あるいは間接的に伝えていくことになるのだということや、スリランカの地域の人々が、元来何の「関係」もないはずのインターナショナルがそこに存在し、活動するということによって、だんだん信頼を持ち始めるのだということなど、熱心に語った。インターナショナルがそこに居るということ自体が、初めは不審に思っていた（あるいは信じられない！といった気持ちを持っていた）地域の人々を勇気付け、その価値の意味を知ってくれることになるのだという。これらは、大島みどりさんなどから聞いていた話ではあったが、やはりこういった「実感」を伴う語りを大事にする必要があると感じた。

また、今後の会議については、2006 年、2007 年、そして今年と、計 3 回の交流会議を経たが、2008 年中に再度ソウルでの NPC/NPJ 第 4 回交流会議を開催する可能性も話し合われた。NPJ 側から、①NPJ メンバーの多くが、日程調整がつかないことや不測の緊急事態が生じたことなどにより、今回の会議に参加できなかったのを残念に思っている、②ＮＰＣ側は各種の会議・行事が重なり、この３月という時期以外には日韓交流の機会を作ることは難しいとのことだったが、そうした会議などの一つに NPJ が参加することにより、改めて交流の機会をつくってはどうか、③特に、NPC 側が重視する非暴力トレーニングを、日韓協力してなるべく参加者を得やすい

簡略な方法で実施してはどうか、と提案した。さらに、その時期について、NPJ 代表の君島東彦が米国から帰任する９月以降、特に一回目の日韓交流が行われた 11 月を提案した。NPC のパク代表は、この提案を踏まえて 2008 年中に再度の交流の機会を作ることを検討するとの意向を示した。

最後に、フルナリ氏は、さまざまなＮＰＳＬの活動とその意義の紹介をしたあと、「今度、このようなプレゼンをどこかでする機会があるときは、ＮＰ東アジア、またＮＰＣとＮＰＪの連携についての報告を組み込んでいきたい」とわれわれを励ましてくださった。また、「朝鮮半島における非武装地帯に 2000 人のＮＰのフィールドメンバーが送り込まれていることを想像してごらん」と言い、これがただの夢を語っているのではなく、フルナリ氏をはじめ、ＮＰのたくさんのスタッフが、こういうビジョンを現実につくりだそうとしている意思を持って行動しているのだと実感し、元気付けられた。ＮＰＪでは、「中期計画」のひとつとして、フィールド・メンバーになることを視野にいれたトレーニングを積極的に展開しようとしている。上記のように、ＮＰＣやＮＰＩと連携をとりつつ、足元でできることがまだまだあると思ったし、そのあたりの具体的な話は今後ＮＰＣとも議論を深めていく予定である。皆さんと一緒にチャレンジしてみたい。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

❒　トリンコマリーより皆様へ！　❑

徳留　由美

★スリランカへ着てから４ヶ月が経ちました。トリンコマリーの情勢は表面上は比較的落ち着いているように見えます。３月の中旬には大きなヒンドゥー教のお祭りが夜通し行われていました。大きな音楽と、トリンコマリーの各地から押し寄せてきた人達で、大変にぎやかなお祭りでした。

☆スリランカ責任者ロランド（右端）と☆

★しかし、誘拐や殺人の数は去年の 12 月の安定していた時期に比べて、増えてきています。これも停戦合意破棄の余波の一つなのかもしれません。また５月に行われる州議会選挙に向けて、トリンコマリー市内の検問所の数が増えて来ています。兵士、警察、ホームガードの配置場所も増えています。車の運転がますます面倒になってきました。

★また２月から、2006 年に起こったトリンコマリーでの５人の学生の殺人と、ムトゥールでの ACF 現地スタッフの虐殺に関する公開討論(Public Hearing)がコロンボにて開催されています。しかし、現地の目撃証人達は呼ばれてはいません。また目撃証人達は自分たちの身の安全に不安を感じています。

未だに殺された 17 人の家族は不安な生活を送っています。脅迫は日常茶飯に起こっています。十分なフォローを受けられずに、息を潜めて生活をしている姿は、見ていても悲しくなります。

（・・・NP トリンコマリーは、殺害された一人の学生の家族を、要請を受けてさまざまな障害を越えて無事英国へ脱出させました。・・・編者注記）

☆　**トリンコマリー・チーム定例会議**　☆

★先週末（3 月 29 日・30 日）には、トリンコマリーdistrict 内の代表的な Peace committee の代表者を集めてのワークショップを行いました。庭野平和財団からの資金援助にて行われた、最初のワークショップです。参加者たちにも初めてにしては満足してもらえたトレーニングだったようです。これからの発展やネットワーク作りに向けて動き出せると思います。

★自分の担当の児童保護については、新しいメカニズムをユニセフと save the children や他の児童保護団体と進めており、これが上手く機能できたらと願っています。

★3 月 14 日に行われた日本大使館での NGO を集めた会議には、参加して良かったと思います。参加者の人達も NP の活動に関心を示していました。また政治部門の畑中一等書記官も参加されており、バティカロでの選挙に関してなどの話をする事もできました。4 月にはトリンコマリーへ来られるそうなので、その際には事務所に寄ってくださると言われました。

またこの会議の後に、JICA の方がトリンコマリーの事務所を訪ねてきて、2 時間程話をしました。彼女とは GA（政府援助）の話などもでき、よい情報交換ができました。また日本から Save the Children Japan の調査員の人達がトリンコマリーを訪れ、その方たちとも個人的に夕食を共にしました。スリランカでのプロジェクトを始めるらしいです。

★NPSL 規定により、6 月には約 1 ヶ月間の休暇が与えられますので、日本への一時帰国を目標に、頑張っています。

お疲れ様です。

☆　**3 月 29，30 日のトリンコマリーの第 1 回 NP 主催ワークショップの模様**　☆

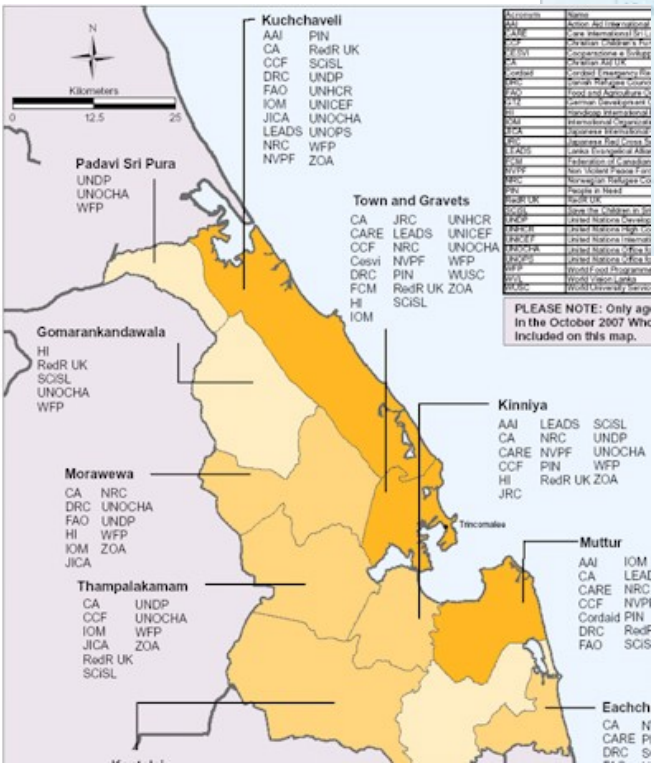
NP スリランカ

☆トリンコマリー・チーム活動の紹介☆

（2008 年 2 月 4 日～11 日：　大橋記）

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

☆　NP トリンコマリー・チームの活動の特色は、地域の草の根の平和委員会の立ち上げと平和委員会相互の交流の促進、平和委員会と政府や国連などの国際諸機関、国際 NGO へのリンケージを積極的に推進していることである。



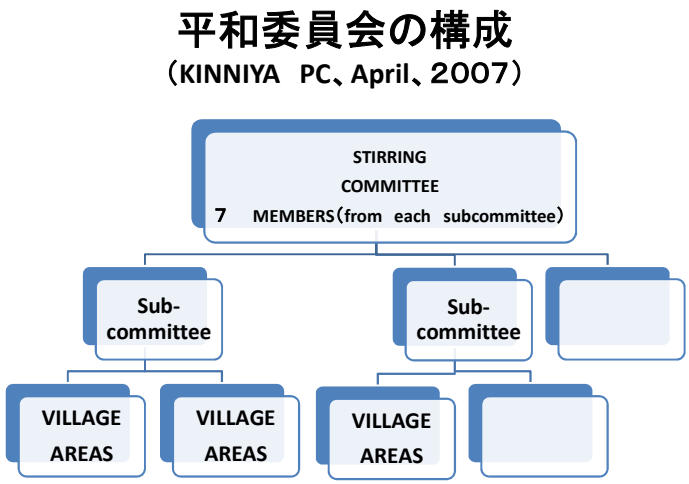
☆　トリンコマリー地域（日本の県に相当）は、市町村が左の地図のように 11 の行政地区に分けられている。この地図は国連人道支援機構（OCHA）が 2007 年 10 月に作成した行政地区で活動している国際機関を表示したもので、１１の地区のうち 6 地区で NP の活動を表示している。NP の定着したプレゼンスを示すものと云えよう。

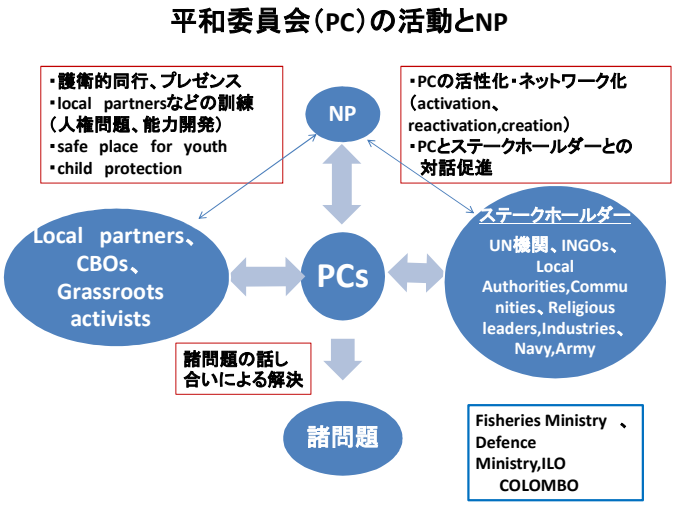
☆　これらの地区で NP は平和委員会の立ち上げを支援している。トリンコマリー地域の特徴は、シンハラ、タミル、ムスリムがほぼ 1/3 ずつを占めて均衡しており、農業、漁業、商業など相互依存の関係もあり、日常生活にかかわる諸問題をコミュニテイ内、コミュニテイ間でまず解決を図ることを求められる。そこからコミュニテイ・ベースの平和委員会が作られてきた。この機運は 2002 年の休戦協定締結以来急速に立ち上がってきたが、2006 年 8 月以降の内戦の実質的再開により活動は停滞していた。スリランカにおける NP の活動が地域に定着するとともに、トリンコマリーでは平和委員会の活動支援への要請が高まってきた。2007 年 2 月のスリランカ月報でこのことを知った NPJ は、庭野平和財団の 2007 年度助成金にプロジェクト申請を提出、8 月から 1 年間の活動資金として 60 万円の助成金を

確保した。これによりトリンコマリー・チームの平和委員会への支援活動が本格的に開始された。

☆　右の組織はキニヤ行政地区の平和委員会の構成を示すものである。キニヤでは、27の市町村が 7 グループにまとめられて、それぞれのグループが運営委員会に代表を送る仕組みで運営されている。

ムトゥール行政地区では 42 の市町村が 8 グループにまとめられ、13 名の委員で運営委員会を構成。地域により運営方法など異なっているようだ。





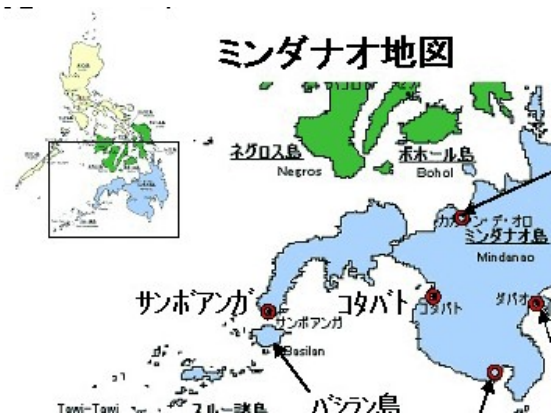
☆　左のチャート図は、トリンコマリー・チーム（NP）が平和委員会（PCs）、NP の地域パートナー、地方政府や国際機関（ステーク・ホールだ―）にどのように関わっているかを示したものである。紙面の関係で詳しくは説明できないが、地域の諸問題を「話し合いによる解決」の方向で NP が果たしている活動や役割を理解してほしい。

下の写真は 2 地域の平和委員会の写真です。平和委員会のメンバーに女性が多いこと、男女ともに活発に議論していること、話題の中心はやはり行政機関に対する不満、治安問題、子どもの教育、仕事に対する政府の厳しい規制などでした。

NP ミンダナオ・プロジェクト

NP 国際理事　阿木幸男

3 月 7 日―12 日、私は NP ミンダナオ・プロジェクトを視察訪問した。7 日 AM9：30 成田発の便で、マニラへ、飛行機を乗り換えて、ミンダナオ島のダヴァオへ。到着は夕方の 6：10。市内のホテルの宿泊。翌朝、NP が手配してくれた車で、NP ミンダナオ事務所のあるコタバト市に向かう。約 4 時間。事務所でアティフ・ハミード事務局長と地元スタッフから活動状況についてのオリエンテーションを受ける。



ミンダナオ情勢の説明の中で使われた表現が二つある。

“NO　WAR、NO　PEACE”

（戦争状態ではないが、平和でもない）

“PARTIAL　PEACE”（部分的平和）

コタバト地区は日本の外務省から観光客の立ち入りを控えるようにとの勧告が出ており、ハミード事務局長から、到着早々、次のように言われた。

・NP 事務所敷地内から一歩も外に出ないこと。

・自由行動の禁止。外に出る時は NP スタッフが同行し、車からは出ないこと。

9 日午前中は地元のイスラム教平和グループのメンバーと会い、午後に NP スタッフたちと中央ミンダナオ事務所に車で向かった。約 1 時間 30 分。ダトピアンのイスラム平和事務所訪問。夕方には地元の平和活動をしている 15 名の村民に集まってもらい、交流した。10 日は早朝から、かって軍事衝突があった現場と、「停戦監視事務所」を数か所、訪問した。

「停戦監視事務所」には 24 時間態勢で軍人、警察官、地元の政府関係者が、待機している。NP は定期的にスタッフが現場を訪れ、「停戦監視事務所」と密接な連絡を取り合っている。彼らは各武装グループの行動形態、スケジュールを把握していた。

大体、林やブッシュの中に拠点を構えている武装グループは、10 日―14 日に 1 回、休息のために、村に戻り、任務の交替をする。その任務交替の時に、他の武装グループとぶつかると軍事衝突が起きていた。「停戦監視」スタッフは無線で各武装グループとコンタクトを取り、交替時間が重ならないように時間調整をしているとのことであった。

村の住民や監視団のスタッフと話して、私が感じたことは、

▸長年の紛争に人々は疲れ、平和を強く望んでいる。

▸「停戦合意」から具体的な「和平交渉」へ進むことを期待している。

▸紛争による地域のインフラ、経済発展の遅れを気にかけている。

▸NP のような国際 NGO の参加を心より歓迎している。

▸平和な状態が続き、子供たちが安心して

学校で学べるようにしてほしい。

▸ミンダナオは美しく、豊かな自然があり、観光客を引きつける魅力があるが、「紛争イメージ」が強く、観光収入が伸びない。

▸マニラを中心とした政治家たちの汚職事件、スキャンダルが多発し、「ミンダナオ和平」が国会で後回しになっている現状に人々は苛立ちを隠せない。

現在、「国際市民平和維持活動者」と呼ばれる5名（セルビア、ケニヤ、オーストリア、ケニヤ、アメリカ）がコタバト、ミンダナオ中央地区、スールーの3か所で活動を展開している。

現地の市民社会と連携しながら、平和構築に向けて、地元の平和活動家たちをサポートしている。

今回、訪問できなかったが、スールーは国際NGOが入りにくく、地理的に不便であるが、軍事的には重要な地域である。地元の平和パートナーとの話し合いを積み重ねて、NP が国際 NGO として初めての拠点を置くことになったのは画期的なことである。

現地での主な活動は

① 地元の平和活動家の『護衛的同行』
② 紛争被害者に会い、サポートすること。
③ 現地で起きていることの情報収集。
④ スールー地区の平和グループ、人権グループとの連携ネットワークづくり。
⑤ 「早期警戒」、「早期対応システム」ネットワークの構築。

3月14日―18日、“ミンダナオ・ユース・キャラバン・フォ・ピース”が中心となって、「和平」を求める行進が実施された。テポログを出発し、ミンダナオの15の平和グループが参加して、ネグロス島、セブ島、マスベテ島を経て、マニラまで数百名が歩いた。

NP は『護衛的同行』を求められ、数名のスタッフが同行した。こうした平和行進において、NP のような国際チームの参加は参加する人々にとって心強いものである、と行進準備の会合で、2人のイスラム・グループ代表がしきりに口にしたのが印象に残った。■

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

THE CHRISTIAN SCIENCE MONITOR

FIGHT VIOLENCE WITH NONVIOLENCE

Unarmed civilian peacekeepers are saving lives today.

By Rolf Carriere and Michael Nagler

from the March 27, 2008 edition

3月27日付、クリスチャン・サイエンス・モニター誌に上記のような題目で NP の記事が記載されており、ミンダナオでの活動も紹介されている。

執筆者の一人 Rolf Carriere 氏は元 UNICEF 職員で世界銀行との調整役として、アジアを中心に活躍した。現在、NP の顧問（シニアー・アドバイザー）でもある。■

【地域活動】ふくしま非暴力平和隊ネット　2004年~2008年

2004年
9月　講演会（会津若松市）
　　参加者3名
10月 講演会（郡山市）
11月 講演会（いわき市）
12月 講演会（福島市）
2005年
2月　非暴力たんぽぽの会主催
　　（喜多方市）
　　熱塩温泉で合宿
6月　講演会（仙台市）
10月 非暴力トレーニング
　　（郡山市）
11月 講演会（水戸市）
2006年
4月　大島みどりさん報告会
　　（郡山市）
10月 いわき地球市民フェスティバル
　　に参加（展示）
2007年
4月　講演会（須賀川市）
5月　講演会（南相馬市）
　　参加者1名
6月　講演会（伊達市）
8月　講演会（二本松市）
9月　講演会（田村市）
10月 講演会（白河市）
11月 講演会（本宮市）
　　福島対話法研究会と共催

2008年
1月　COLLANVO ふくしまに参加
　　（展示と団体紹介）
3月　講演会（相馬市）
　　参加者　なし

これらの説明会は、その成果を期待せずに、ご縁の有る無しを考えずに**県内全域に理解者を開拓しよう**という私共の姿勢の第一歩、いわば福島県民へのご挨拶のつもりでした。

「夢」は「200万県民の1％にあたる2万人の方が年1,000円のカンパをしてくださるようにならないものか！」というものでした。

最初3名だった会員が　現在30名ほど（賛助会員を含む）になっていますが、実はその多くの方は　これらの説明会以外の場、例えば　中里見さん・鞍田の他の団体主催の講演会での話や　その他の人縁などによって「非暴力平和隊」を知って下さった方々で、環境・福祉・地方自治・原発などの分野で然るべき活動をしておられる方々なのです。

ですから　問題は
『これから　どうやって　自衛にせよ国際貢献にせよ「軍事力が必要」という気分に犯されている多くの方々に　現実的な選択肢として　理念と実績の伴った「非暴力平和隊」（及びその他の非暴力行動団体）について伝えてゆけば良いのだろうか』
ということで、これを　4月には　ご相談する機会を設けようと思っているところです。

（ふくしま非暴力平和隊ネット）
鞍田　　東

【地域活動】北九州市における「非暴力による平和創造を考える」会の報告

川辺希和子

日時：３月３０日（日）午後２時～４時
講師：安藤博事務局長、前田恵子理事
参加者：講師含めて会員５名＋２４名（高校生２名と小学生１名含む）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（参加者の感想を抜粋）

♥ 具体的に非暴力の活動をしている人に会えて本当に良かった ♥ Christian Peace Maker Teams の活動は詳しく知っていたが全く違う点も多く、考えさせられた ♥ 非暴力で平和を築く素晴らしい活動を聞き頼もしく思った ♥ 非暴力と言う言葉を初めて聞いた、平和の為に何が出来るか具体的に考えたこともなかったが前田さんの具体的な話がわかりやすく、保育士として平和への意識につなげていけるように心がけたいと思った ♥ 勇気のいる仕事だと思った・日ごろあまり考える機会がなかったので良かった ♥ 今日学んだことを深めるよう今後努力したい ♥ 私たちに出来ることをしていきたいと思った ♥ 少しでもわたし達が力を合わせて平和を実現していくことが大切と再度思わされました ♥ 実際に現地に行ってきた人のお話が聞いてみたい ♥ 厳しい状況の中活動しておられることが想像できた

（北九州での NPJ の集会が実現して・・・・）

昨年の山口での集会に参加して以来、そのうち北九州でも・・・と思っていたところ、メーリングリストでの鞍田さんの熱心な呼びかけに背中を押されて今年中に実現したいと思い始め、２月か３月の九州行きにどうですかという安藤さんの返信に内心「早すぎる」と思いながらも、前田さんと沖さんが来て下さるとの知らせにほっとしつつ、なんとか実現しました。少々驚いたのですが、当日どんな話が聞けるか楽しみにしているという方が結構いらっしゃいました。終了後の会場の様子からも、関心を持ってくださったという印象を受けました。結果は、賛助会員に２名、情報希望者（非会員メーリングリスト登録含む）８名でした。このような会を行ったことで非暴力平和隊について知っている人が北九州にも増えたという事実と、所属や活動内容は違うけれど平和を望む人と新しい出会いがあったこと、そのことで次へつなげていけると思っています。知らせることに臆病になったり知らせる相手を選んだりしないことも、平和を創り出すための第一歩なのかもしれないと思いました。

（子どもたちにわかる内容を）

高校生に聞いてみると、難しかったというのが本音だったようです。中学生でもわかるような内容であれば、大人はいよいよよくわかるというものだと思います。中学生くらいでも興味を持って参加できるような内容の集会を、計画することはできないものだろうか？今後の課題です。

（講師のお話）

講師のお二人はそれぞれ違う視点からお話してくださいました。それがとても良かったです。次回からは写真や録音に残したいと思います。ありがとうございました。 ☼☼☼☼☼☼☼☼☼☼☼

2007年度決算見込み、
2008年度予算　　説明

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

Ⅰ.特別会計

1. 2006年に田中恵美子様より20,000,000円の遺贈金をご寄付いただき、特別会計として田中基金を設けました。この基金より2006年度8,000,000円をスリランカに送金、2007年度はNP国際事務局とスリランカに合計 6,300,000 円送金した他、東アジア日韓会議に1,722,690円を支出、2007 年度末田中基金の残高は 3,977、310 円となりました。2008年度は NP の緊急送金用として確保しておく予定です。
2. 2007 年度に、庭野平和財団よりスリランカのトリンコマリーの平和委員会活動支援として 600,000 円の助成金をいただき、大竹財団より国際理事経費として 500,000 円の助成金をいただきました。2008 年度も同様の助成金獲得を計画しております。（庭野平和財団からは1,000,000円を予定）

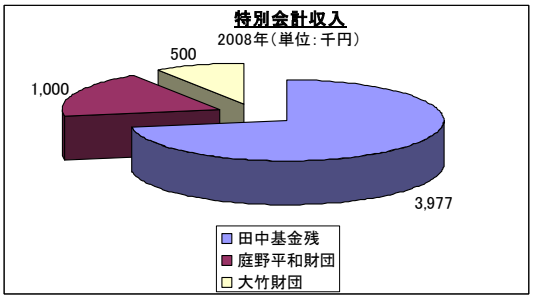
Ⅱ. 経常会計

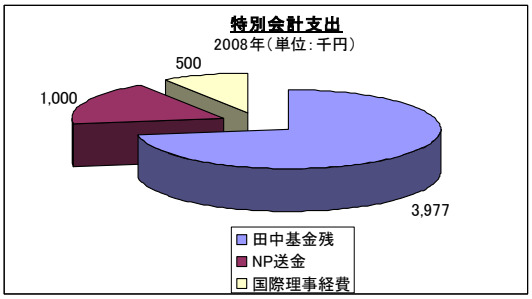
1. 現状は収支が年間約 2,000,000 円の規模で推移しています。当面、経常会計でNPJ の活動を賄う方針ですので、活動を一層推進するためには会員の増加を図るとともに、会費の未納をなくすことが必要です。会員のご理解とご協力をお願いいたします。
2. 2007 年度は、ナイロビ総会費用をカンパ資金でお願いするなどして、収支ほぼ均衡いたしました。
3. 2008年度の経常収入では、上記1)項により会費収入の増加を計画しています。前年に比較し20%の増加です。
4. カンパ収入が多少の減少にとどまっているのは、経常収入から少額でもスリランカへの送金をしたいとの意志からです。（2007年度は、ナイロビ総会にNPJから 2 名の代表を送るために特別のお願いをいたしました。）
5. 講習会参加費収入は、2007 年度の非暴力連続講習会（阿木理事主催）を予算上は計画していないためです。
6. その他は、最初の NPJ 出版となる『非武装の平和構築――NGO 非暴力平和隊の理念と活動』の販売収入です。（支出のその他で、出版社からの購入費を計上）
7. 2008 年度の経常支出では会員増加による会報関係費の増加（印刷・発送）を見込みました。
8. 活動支援費は、2007 年度はナイロビ総会関係費が大半を占めましたが、2008年度はFTM候補のコア・トレーニング参加費、会員の海外渡航費支援（選挙監視など）等を見込みました。
9. 旅費交通・通信費は2007年度はナイロビ総会の国内各地での報告会の支出が大きかったための減少です。
10. 講習会経費は外部講師料を2007年度予算並みに見込んでおります。
11. スリランカ・カンパ100,000円は、NPJとしての姿勢を示す意味があります。

Ⅲ. 2008 年度末の NPJ の資産残高は、経常会計で 1,052,607 円、特別会計で 3,977、310円、合計5,029,917円の見込みです。

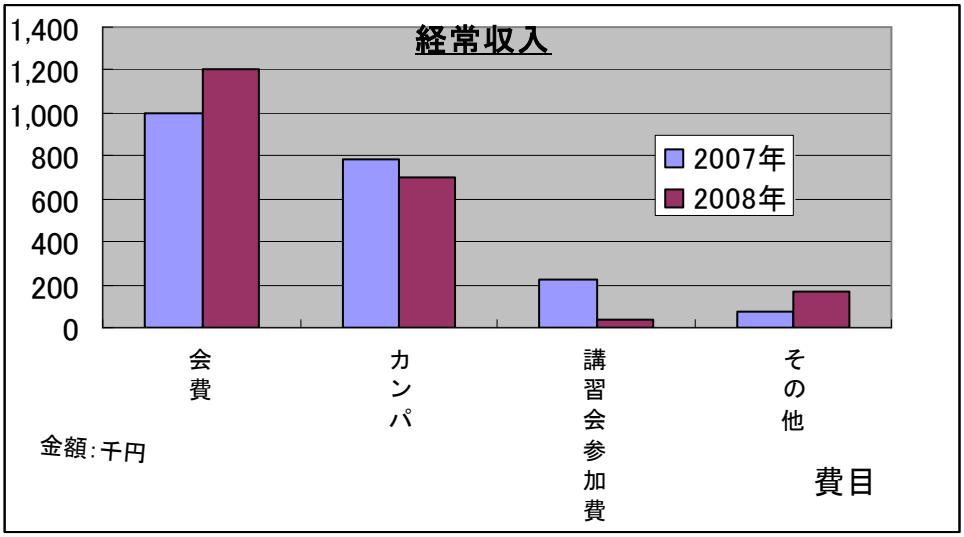
2007 年度決算見込　2008 年度予算

特別会計は 2008 年度予算のみです。田中基金は 2007 年度より繰越。

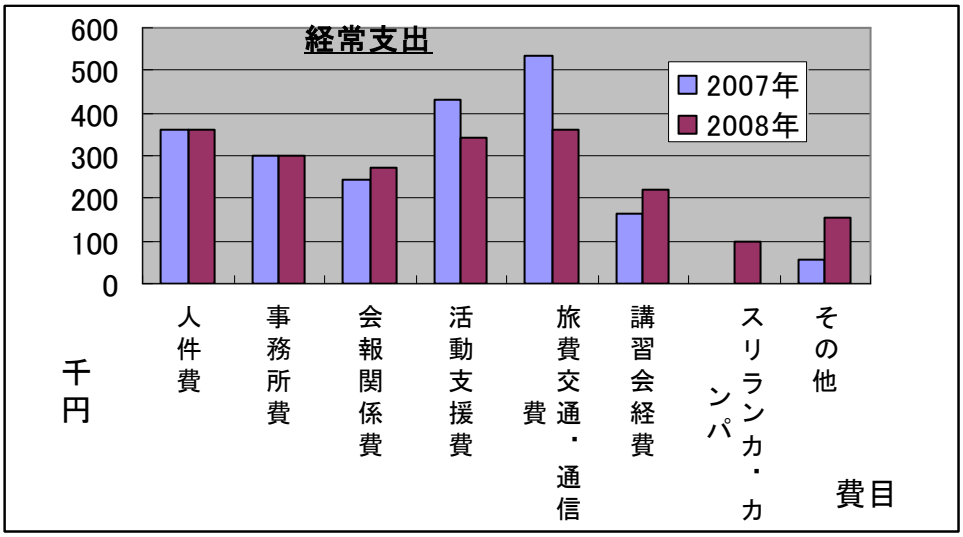




経常会計収入合計：2007 年度　2,086,000 円、　2008 年度　2,110,000 円



経常会計支出合計：2007 年度　2,092,000 円、　2008 年度　2,105,000 円



NPJ 中期計画私案、次回理事会に向けて

安藤　博

2007 年 9 月のナイロビ総会で採択された非暴力平和隊の中期計画（2008-2012）に対応して、日本で活動するわたしたち（NPJ）なりの計画をつくることにしようという鞍田監事のご提案が、今年初めにありました。3 月の理事会・総会でこの提案について討議した結果、討議内容をまとめた計画案を理事会決定に向けて提出するというのがわたくし安藤の宿題になりました。このことは、大橋理事から送られた議事録でご存じの通りです。

2008-2012 年度の 5 ヵ年計画ですので、この 4 月 1 日からその計画実施期間に入るべきものです。しかし、わたくしの怠慢により、この「宿題」提出が大きく遅れました。この段階で計画決定に至るのは無理となってしまったのです。

そこで、上記の「まとめ」を安藤の私案として NPJ ニュースレター本号に掲載し、皆様のご意見をいただいた上で、改めて次回 6 月 14 日（土曜日）の理事会に向けて正式に提案することにいたします。

「計画を不要」とするとのご判断、あるいは私案の内容につき「あまりにも不適切・不十分でコメントに値しない」、「もっとちゃんとしたものを出し直せ」など、歯に衣着せぬ率直な「ご意見」を歓迎いたします。

「私案」は、鞍田原提案に即して【NP 中期計画】を骨格としてまとめています。NP/NPJ の活動を広く伝え、「非暴力平和」の理念を、同じ理念に基づく憲法を持つ日本で定着させ十分に活かしていくことを目指すビジョンです。それと合わせて、このビジョンを踏まえた NPJ 会員の日常活動の指針として、各期の理事会・総会で活動の成果を検証できるような≪活動方針≫を示しています

この案の元になっている前回の理事会で、＜中期計画＞立案の原提案者、鞍田さんとわたくしとの間で、以下のようなやり取りがあったことを付言しておきます。

わたくしは、「計画」を極く簡略なものにすることを旨として、「会員数倍増」などの案を挙げました。これに対して、鞍田さんから、「会員を集めようとして、ひとびとに訴えようとするとき、『NPJ の中・長期の目標は何か』と問われて『会員を増やすことです』はないだろう。『会員数増』は手段であって、目標・目的ではあるまい」という、まことに鋭いご批判がありました。小生は、「『会員増』は確かに手段であるが、同時に『目標』でもあると考える。日本でＮＰに関わる会員がわずか 200 人足らずというのは、いかにも情けないことではないか」と、一応反論いたしました。

しかし、鞍田さんの言われる通り、未知の人に「『会員を増やすこと』を活動方針・目標としている当方団体にご加入下さい」とは言えないと思います。

私案は、そうしたやり取りを踏まえ、全くの部外者を含めて広く訴えていくためのビジョンを示し、合わせてＮＰＪ会員の日常活動の指針を≪活動方針≫として銘記するという二本立てをもって【NPJ 中期計画】としています。

そのなかで、たとえば「NPJ 会員各人が年間一人以上会員を増やす」といった≪活動方針≫は、非暴力平和活動を推進していくための手段であるとともに、日本国内で活動するわたしたちにとって、もっとも身近な目標でもあるべきだと思っています。ただ、「あまりにも当たり前」「あまりにも幼稚」「新興宗教や政治団体並みのいじましい目標」といった違和感を持たれる方もおありと思います。そうした難点もありそうなので、もしNPJ 会員の大方が本気で≪活動方針≫とすることに賛同しない限り、全く無意味でしょう。たとえ「計画」として決めても、床の間の飾り以下のものにしかなりません。即ち、計画案としては撤回すべき事柄です。

こうした「中期計画」の看板からすると瑣末に過ぎると思われがちな事項についても、「まあ、いいじゃないの」と他人事扱いするのでない「ご意見」をいただきたいと思います。

【NPJ 中期計画】（案）

（　2008－2012 年度　）

＜国際的派遣と派遣準備＞

・現地活動要員の候補者養成のための基礎トレーニングを計　画的に実施（5 年間で計 100 名を目標）

＜日本における NP 組織体制の強化＞

・新しいメンバー団体を勧誘する（各年 1 団体ずつ計 5 団体）

＜NPJ 組織の充実＞

・専任ファンド・マネージャーの任命

・会員の確保・拡大

＜知名度向上と支援層の構築＞

・賛同人の増加（20 名を目標）

・中立的なメディア、政治家などへの広報強化

≪NPJ 活動方針≫

「非暴力平和」活動の発展に応じた NPJ 基盤強化を目指し、NPJ 会員を 5 年間で倍増する。この目標達成のため、以下を指針として活動する。

・全 NPJ 会員は、各人毎年少なくとも一人の新会員を得る。

・全国の約半数を占める＜NPJ 会員不在県＞を無くして、全都道府県に少なくとも 3 人以上の会員がいるようにするため、各理事会メンバーは、2007 年 6 月の理事会（福島）決定に即して、それぞれ＜責任県＞を持ち、毎年少なくとも 1 県ずつこの目標を達成していく。

・会員の拡大によって NP 理念を広げていく活動の過程で、日本国内における各種の＜暴力＞を非暴力平和の活動で克復していくための方策を、それぞれの地域の実情に即して立案し、その実行の成果を 5 年以内に“目に見える”かたちで示すことに務める。

非暴力平和隊・日本　第６回総会（２００７年度）議事録

非暴力平和隊・日本の第 6 回総会が下記により行われました。その概要をご報告いたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

日時：2008 年 3 月 15 日（土）15 時~17 時
場所：文京シビックホール

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

総会の前に、関西より上京されて初めて総会に出席された森田留美さんに、折畳のピアノで安東事務局長即興の「非暴力平和なんて夢物語・・・」を弾き歌った後、MD のテープを伴奏に、「カッチーニのアベマリア」を歌いながら踊って総会を盛り立てていただきました。

―議題―

1.　2007 年度決算見通しと 2008 年度予算

この題目の別の説明をお読みください。

2.　人事

① 前田惠子の理事就任：西日本、特に中国、四国、九州地域の NPJ の活動推進のため前田惠子の理事推薦が提案され承認された。

② 小林善樹理事から、一身上の理由で理事辞任の申し出があり、承認された。小林善樹氏のこれまでの NPJ に対する貢献に心からの謝意が表された。同氏は、今後一会員として活動される。

③ 鞍田東氏の監事留任の要請が行われ、同氏の了承を得た。

3.　会費納入の促進

3 月 15 日現在で会費納入の期限が過ぎている会員が、正会員３０名、賛助会員５１名、団体会員２である。3 月末現在会費未納会員に対して、それまでの未納分は放棄し、4 月より新規会員として会費の納入をお願いする。

4.　資金調達関係

① これからの NPJ の課題として資金調達が重要となるので、対外的な配慮を含めてファンド・マネージャーの名称を付けて資金調達への姿勢を見せてはどうかとの提案があったが、現状の戦力アップとはならないことから見送られた。

② 庭野平和財団、大竹財団からの助成金の実績ができたので、他の財団、基金にもアプローチをする。可能性のある財団、基金の情報を一般に呼びかける。

5.　情報の共有（翻訳提供による）のための新体制

翻訳担当の小林善樹理事退任による情報の共有（翻訳体制）について下記の意見が出され、これらの線で対応していく。

① 完全翻訳から要約へ

② 英文の段落の冒頭だけに翻訳或いは要約を付ける

③ 協力者の呼びかけ

6.　NPJ の中期計画

2007 年 9 月のナイロビ総会で策定された NP の中期計画のイメージに呼応して NPJ としての中期計画のイメージを策定することの必要性が提案された。安藤博事務局長と鞍田東監事の二人からの提案をもとに様々な議論があったが、時間不足で別途、安藤博事務局長が議論をまとめる。

以上　■

【皆様、こんにちは。去年の秋に入会させて頂きました森田留美と申します】

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

❒自己紹介させて頂きます。
私は自分が大変無知で、理解力にも欠ける平和活動初心者でいつも恥ずかしく思っておりますが、一方、関心を持っていない一般市民の方々の感覚は想像できるかもしれないから、音楽で広く呼び掛け、より多くの人々の関心をひくきっかけ作りや、愛、友情、喜び、哀しみ、痛み、怒り等々を表現して、皆様のテンションを高め、共感、団結心の強化、やる気、勇気等をもり立てていく仕事が出来たら良いなと考えております。
❒今、女性被爆者のかたに、打ち掛けをはおっていただき、証言して頂いたDVDを創りはじめました。
着物は日本の素晴らしい伝統芸術を外国の方に紹介し、気軽にはおって頂き、触れて頂き、ご覧頂き、楽しんで頂ける国際交流にぴったりの道具だと思い、思いきって、かなり上等の本物の打ち掛けを購入致しました。
日本女性の訴えとして、被爆者の皆様の心を伝え、非核平和を歌って行きたいのです！
❒原爆詩人栗原貞子先生の〈ヒロシマというとき〉を各国語に訳して頂き作曲したり、御庄博実先生の劣化ウランに関する詩、リボンプロジェクトの絵本〈戦争のつくりかた〉の弾き歌い、フォトジャーナリストの篠田さんのメキシコの〈ストリートチルドレンの写真〉と音楽のコラボレーション等をプログラムに、今のところ、9条世界会議、幕張メッセで5月5日午前中に、ブースのミニステージでコンサートをさせて頂く予定です。
NPJの皆様には夕方からの自主企画のご準備でお忙しいかと思いますが、是非是非お運び下さいませ！
9条世界会議では、安藤先生にキーボードを運んでいただきましたり、大畑さんに何かとアドバイスご助力頂き、本当にありがたく思っております。
ありがとうございます！
どうぞよろしくお願いいたします！
❒浅見先生のピースウォーク、素晴らしいです！
一泊だけ、被爆者のお婆ちゃんに頂いた寝袋を担いで参加させて頂いたら、とても楽しくて、時間が許せばこのまま幕張メッセまで歩きたいと思いました！
広島原爆ドーム前、
大阪中之島公園、
大垣市役所前やウォーク中で歌わせて頂きました。
ありがとうございました！

―2月24日、9条ピースウォーク　キックオフで―

❒さて私は《非暴力平和隊》という名前に先ずひかれました。
数年前、岡本三夫先生が
「原爆詩を歌ってみませんか？」とおっしゃって下さった、間もない頃に「非暴力平和隊に入りませんか？会費は年一万円です。」と、おっしゃったのですが「高いな」と感じ、そのままになっていました。
❒私は頂いた詩を、その場でピアノで弾き歌うのが好きなので、原爆詩を作曲し、霞が関の裁判所、法廷でも歌う事が出来、あちこちで歌わせて頂き、市民活動の皆様に温かく接して頂き、時がたちました。
❒ある時(パソコンは苦手なので時たましかしないのですが)インターネットで《非暴力平和隊》を見つけ、決議権のない、5千円の賛助会員がある、とあったので、勢いに乗って入会させて頂きました。
早速皆様に温かい歓迎メールを頂き、鞍田さまからは「イメージソングを創りCDを創ってヒットさせ、活動資金をつくりましょう」と楽しげなメールを頂き嬉しかったのですが、皆様の飛び交うメールやニュースレターが難しく感じられ、怖じけついてしまいました。
でも、大阪で報告会があるとの事でしたので、出席させて頂く事にしました。
生憎、風邪を拗らせ、酷い状態でしたが、足

を運ばせて頂きました。
❒と、懐かしい大畑さんに再会出来て、とても嬉しくホッとしました。（失礼な事に、お名前とお顔が繋がっていなくてメール頂きながら、NPJの大畑さんが、イラク派兵は違憲市民訴訟の会東京でお世話になった大畑さんでいらっしゃる事がわかっていなかったのです）
その日は打ち上げに参加出来なくて、とても残念でした！
❒でも、ビデオも解りやすく、和やかな雰囲気で、全く初心者の私は「紛争地域の活動家が行動するときに訓練を受けた外国人が付き添う事で、その活動家の命を守り、紛争地域の人々が自身の力で紛争を解決していく事を即していく」ということを初めて知ることが出来て、理事の皆様も、お優しくフレンドリーでリラックスした雰囲気で、足も崩させて頂き、居心地良く過ごさせて頂きました。
❒友和会の非暴力トレーニングにも参加させて頂きましたが、理念を学ばせて頂いた感じが致しました。
❒総会に伺えば、凄い先生方に直接お会い出来て《非暴力平和隊》の事がよくわかるかなと思いつつ、ちょっとおっかなびっくり伺いましたら、家庭的な雰囲気の中で温かく迎えて下さり、懐かしい野平さんにも出会えて（昔、ピースボートで私の仕事、ミュージカル《サウンドオブミュージック》でトラップ大佐役でギターの弾き語りをしてくださいました。
又『声を、出して行かないといけないのですよ』と全く無知な私に教えて下さったのは彼です！）
嬉しかったです。
❒NPは世界的なとても大きな組織なのだと思っていましたが、やはり、声を上げ、非暴力の素晴らしさを伝え、会員を増やし、世界中の非暴力の仲間と団結し、世論を動かして行く事を目指しているのかな、と、感じました。このご縁に感謝しております！
今後とも、どうぞよろしくご指導下さいませ！又、本当にNPJのテーマソングの詩を募集させて頂きたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします！
ありがとうございました。 ■

＜9条世界会議＞、硬軟を使い分けて

安藤　博

＜10,000人＞というのが、並々ならぬ数であるのを実感したのは、2007年の秋、東京都心で開催された憲法集会の会場入り口で、＜9条世界会議＞のチラシを配ったときである。開会までの1時間ほど、ほとんど切れ目なしに続く入場者に4人の仲間と配り続けた。手早く渡していても、渡しそびれるひとがかなりいた。追いつけないほどに続いた約1時間の人の流れがどれほどの数だったかといえば、会場の定員からして多くても900人ほどである。5月4-6日、幕張メッセに集めようとしているのは、その10倍なのだと、チラシ配りを終えて10,000人の多さを実感した。

会議プログラムは、＜世界会議＞実行委員会がまとめた苦心の作である。4月4日現在で公示された3日間の主要プログラムは、http://whynot9.jp/doc/flyer_back_mono_04Apr.pdf（A4チラシ版＝PDF形式）でご覧いただきたい。

「苦心」とは、9条を護るために闘ってきた“護憲派”（G）だけではなく、＜平和＞や＜憲法＞など無縁と思いがちの“無縁派”（M）も引きつけるような集会にすることである。前者（G）は、9条の歴史的・世界的価値を、暴力と流血が続く現代社会でアピールするような講演を期待するだろう。後者（M）には、“お話しばかり”は禁物で、有名ミュージシャンの演奏などが決め手になろう。10,000人という数の大きさからすれば、後者に重点を置かざるを得まい。そしてまた、世界中から集まったひとびととともに

に 9 条を世界で活かすための連帯を作り上げる現場を、“無縁派”にも共にしてもらうことが、この＜世界会議＞を主要な目的なのである。

「苦心」は、ＧとＭという（乱暴な）類別の双方について、さらに世代や関心・好みなどで類別される二つの“派”をプログラムに組み込むことである。一つの“派”は、年齢では若者でなく中年以上であり、また関心・好みはオーソドックスな、いわば“硬派・正統派”（X）。もう一派は、若手、そして好み・関心はポピュラーでモダンな方に傾く“軟派・通俗派”(P)。即ち全体では、G-X、G-Ｐ、M-X、M-P の 4 派それぞれに十分な吸引力をもった集まりでなければならない。そのために、世界で、全国で名だたる著名人、タレントをそろえるということである。

G-X は、当然ながら＜世界会議＞冒頭の基調講演者である。北アイルランド紛争の終結に向けてのねばり強い努力で知られるノーベル平和賞受賞者マイレッド・マグワイアさんと、「日本国憲法 9 条が謳う『戦争の放棄』を、全ての国の議会が決議するように」という宣言を行った 1999 年ハーグ国際市民会議の立役者で、米国の平和活動家、コーラ・ワイズさんの二人。

一方、G-P では、元米陸軍大佐、外交官だったアン・ライトさん。イラク戦争に抗議して軍務を離れ、平和活動に邁進してイラク反戦デモで何度も逮捕されたりしている。正統派の平和活動家ともいえるが、とにかく“前人気”が高い。

M-X、はなんといっても加藤登紀子。　そして M-P では UA。NPJ 理事で、この「UA」をどう読むか知っているのは、僧籍をもちながら若者文化の最先端に通じ、IT 専門家でもあって小生の助っ人をして下さっている小笠原正仁さんぐらいではなかろうか。＜世界会議＞初日の 4 日は、午後 1 時半の開会から 8 時までスケージュールは盛りだくさんだから、基調講演も、通訳を含め 30 分程度に抑ええようとしているが、UA の演奏には 45 分をとっている。４、5 両日とも１０００円でチケットを売り出したのと同時に、デマが飛び始めたという。「UA や RINU REBELS（こっちも、わかるかなあー？）の演奏分には、別のチケットがいるんだってよ」と。9 条そっちのけ、＜UA45 分、1000 円＞だけで、若者が 30,000 人押しかけるという説さえある。

有名ミュージシャンたちを“無縁派”(M)に照準を当てたものと類型化したが、比較的安い出演料で参加してくれる彼らは、いずれも＜9 条＞に極めて高い意識を持つ。加藤登紀子はいうまでもあるまい。UA は、環境問題に対する積極的な活動でも知られているという。

＜世界会議＞プログラムのなかで特筆しておかねばならないのは、NPJなどが自主企画の＜ワークショップ＞(別項参照)を終え、基調講演者が広島などへ発って行ったあとの最終日、6日午前に予定されているまとめの総会である。

ここで、①【９条世界宣言】と、この宣言を実現するための②【９条を世界化するための行動計画】が採択され、【国際社会での次のステップ】が討議される。目下、実行委事務局が起草した宣言文案の骨子をもとに、基調講演者などとの協議が舞台裏で進められている。

首尾よく10,000人が集まったとしても、演説と演奏だけで終わってしまえば、両国の打ち上げ花火以下である。筆者も、宣言文と行動計画についてはそれなりに関心を持ち、チケットやグッズ売りの傍ら、自分なりの意見の反映に務めている。

9条世界会議ワークショップ、「紛争地で活かす9条」

安藤　博

5月4-6日、幕張メッセで開催される＜9条世界会議＞二日目の夕刻、非暴力平和隊・日本（NPJ）は、「紛争地で活かす9条」をテーマとするワークショップを別紙の通り開催します。少しおおげさに言えば、この企画は発足以来5年となるわたくしたち NPJ にとって試金石となります。日本はスリランカのような紛争地ではありませんから、非暴力平和活動自体を展開する場というのでは、もちろんありません。同じように市民による平和構築を目指す他の多くの団体のなかで、NPJ の存在をどこまで際立たせることができるかです。

各団体による自主企画は、＜世界会議＞に参加する多くの市民活動団体のなかから約20 のグループが名乗りをあげ、自らの活動を世界から集まる人々に向けてアピールする、その競演となるのです。「考えてみよう『米軍再編』と憲法9条」（日本平和委員会）と称して、平和憲法と日米軍事同盟の矛盾に正面から取り組む企画を立てているところ、かと思えば、「9条落語会と写9プロジェクト」（写9プロジェクト）もあります。

新宿西口などの屋台街に行かれるひとならよくご存じでしょう、店によって、驚くほど客入りの差があることを。同じような焼き鳥屋が並んでいる中で、椅子の空くのを待って恨めしそうに待つ人の列ができる店があるかと思えば、その隣はがらんと席が空いたままで、おやじがぼんやり通りをながめているといったように。幕張メッセの会場内で、NPJ の“出店”が、後者のような惨めな姿に、間違ってもならないようにしなければなりません。

NPJ ワークショップに参加して下さる方たちに、非暴力平和活動の意義を十分知ってもらい、今後に向けて支持を得るようにするためには、もちろん企画を十分に練り、また、“お客”の顔ぶれをよく見定めて“出し物”の味付けに工夫をこらすことが必要です。しかしその前に、お客に来てもらわないことには、話しになりません。はるばるインドから招くゲストも、下手をすれば“サクラ”を勤めるわたしたち NPJ メンバーだけを相手に話しをするといった“惨状”になりかねません。

広い会場のなかでの一室でのことです。並んでいる屋台のなかから、お好みを選んでもらうのとわけが違います。お客さんの大方は、幕張にやってくる前から行く先を決めているでしょう。“勝負”は、開場前の集客“営業”でほぼ決まっているのです。

率直にいって、NPJ メンバーは、私自身を含め“営業”があまり上手ではないようです。それは、これまで東京で行った＜非暴力講座＞、2007 年 8 月の日韓交流会議の一環で行った大阪でのシンポジウム、そして同年秋の“全国行脚“に現れています。この”営業下手“を、わたくしは NPJ ニュースレター第19 号（2007/9/13 日発行）で、「NPJ”士族の商法“」と題して自己批判しました。なにかが欠けているのです。

その「なにか」を克服することが、当座の＜ワークショップ＞集客問題を超えて、「紛争地で9条を活かす」活動の支援に役立つのだと思います。**＜世界会議＞まで、もう一ヶ月足らず。しかし、まだ一ヶ月あります。** ▉

＜9 条世界会議＞ワークショップ開催案(2008/04/07)

紛争地で活かす９条

国際 NGO<非暴力平和隊（NP）>の活動は、武力を排して平和を築くことを目指す日本国憲法第 9 条を、紛争地の現場で活かしているものです。＜9 条世界会議＞の一環で、NP 活動について、その原点にさかのぼり、スリランカでの活動報告などをもとに紹介します。

憲法 9 条が紛争地でどのように活かされているかを、ビデオ映写を交えた活動現場の報告、活動要員へのトレーニングの紹介などをもとに説明した後、参加者のみなさんとともに、9 条を護り実践していく今後の活動を話し合います。

■日時： 2008 年 5 月 5 日 16：00－18：30
■場所： ＜9 条世界会議＞会場・幕張メッセ会議室３０１Ｂ（定員 100 人）
■主催： 非暴力平和隊・日本（NPJ） http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/
■報告者：
- 非暴力平和思想の元祖、ガンジー縁りのマドラス大学のラム・マニバナン助教授（同大学ﾏﾊﾄﾏ・ガンジー平和・紛争解決センター＝MGCPCR インドから招聘）
- ＮＰＪ創設メンバーで、スリランカでの活動経験を持つ大畑豊（NPJ 共同代表）
- NP スリランカ第１次派遣メンバー、大島みどり（同理事）
- スリランカ大統領選挙監視団に参加し、また 2008 年１月の停戦合意破棄後のスリランカ現地情勢を視察した大橋祐治（同理事）
- 非暴力平和活動トレーナー阿木幸男(NP 国際理事)＝司会

■報告内容：
① 最近のスリランカ活動状況を、ビデオ映像などにより報告。
② ガンジー思想を淵源とする非暴力平和隊の活動理念と日本国憲法第９条との深い関わりを解説。
③ 現地活動要員へのトレーニングを紹介することを通じて、非暴力平和活動が実際にどのように実践されるかを説明。

■問合せ先： 非暴力平和隊・日本（NPJ 事務局長 ）安藤博
(Tel&Fax:047-327-2004 E-Mail:andou@kke.co.jp)

９条ピースウォークについて

浅見靖仁

５月４～６日に千葉県の幕張メッセで開かれる９条世界会議のプレイベントとして、２月24 日に広島の原爆ドーム前を出発して、71 日間かけて幕張メッセまで歩いていくという９条ピースウォークが行われています。この原稿を書いている４月７日の時点ではすでに愛知県東部まで歩いてきています。

９条ピースウォークには、非暴力平和隊・日本（NPJ）の理事でもある私が実行委員会事務局の共同代表としてかかわっているほか、他の理事の方々も各地でのウォークに参加して下さっていますし、仙台在住のNPJ 会員、千田嘉三さんは広島から幕張メッセまでを歩き通すことを目指して今日も歩いています。

９条ピースウォークは抗議デモではありません。歩きながら何かに向かって怒鳴ったり、シュプレヒコールを連呼して気勢をあげたりするようなことはしません。９条ピースウォークは、憲法９条についてよく考えてみましょうと一般の人たちにニコニコと呼びかけるチンドン屋のようなものです。

国語辞典を引いてみると「デモ」には２つの意味があるようです。１つは「示威行動」とか「示威運動」という意味、もう１つは「実演」という意味です。「抗議デモ」の「デモ」は前者の方でしょうし、新曲の「デモ・テープ」とか新しく発売される電化製品の「デモ映像」などは後者の方でしょう。示威行動というのは文字を見ればわかるように「威」力を「示」して相手を自分の意見に従わせることを意味します。「武力の行使」だけでなく「武力による威嚇」も永久に放棄すると宣言した憲法９条について考えようという運動に「示威行動」はあまり向いていません。「デモ＝示威行動」というイメージが強いので、９条ピースウォークではデモという言葉は使っていませんが、もしデモだとすれば前者の意味でのデモではなく、後者の意味でのデモを目指しています。「示威」ではなく「実演」です。何を「実演」するのかと言えば、多種多様な人がニコニコと仲良く楽しく一緒に何かをすることの「実演」です。そうした「実演」によって、これまであまり９条について考えて来なかった人たちに９条について考えてもらうきっかけとなることを目指しています。

というわけで、９条ピースウォークは多種多様な人々に参加してもらうことを重視しています。護憲運動というとこれまでは中高年が中心というイメージが強かったと思いますが、若い人たちの参加を積極的によびかけ、ウォークに参加した若い世代の人たちに交代でウォークの感想を書いてもらうブログ（毎日更新）もできています。イラク帰還兵でもあるアメリカの若者やプエルトリコ出身のヒップホップ・ミュージシャン、台湾の僧侶など海外からの参加者も何人かいます。

９条ピースウォークは、４月９日に愛知県から静岡県に入り、４月 22 日には神奈川県に入ります。４月 29 日には横浜から東京までパレードをしますし、５月１日は御茶ノ水の YWCA 会館で交流会、５月３日は日比谷公園で行われる護憲集会に参加し、５月４日と５日には９条世界会議に参加します。何日間か続けて参加される方には各地で無料の宿舎も用意しています。この機会に楽しく歩きながら、いろいろな人と一緒に９条について考えてみませんか？メタボ対策にも効果的です。詳しいことは、９条ピースウォークのウェブサイトをぜひご覧下さい。**９条ピースウォーク公式ウェブサイト**：http://homepage3.nifty.com/peace_walk/■

会 員 募 集

■非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援してくださる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申し込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊･日本ウェブサイトの「入会申し込みフォーム」**をご利用下さいますようお願いいたします。

◎正会員（議決権あり）
- 一般個人：１万円
- 学生個人：３千円

＊ 団体は正会員にはなれません。

◎賛助会員（議決権なし）
- 一般個人：５千円（１口）
- 学生個人：２千円（１口）
- 団体　：１万円（１口）

■ **郵便振替：00110 - 0 - 462182　加入者名：NPJ**
＊通信欄に会員の種類を(賛助会員の場合は口数も)ご明記ください。　例：賛助個人１口

■ **銀行振込：三井住友銀行 白山支店　普通 6622651　口座名義：NPJ 代表 大畑豊**
＊銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話･ファックス･メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ 事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ **ウェブサイトからのお申し込み：http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/nyukai.html**

ご 案 内:

☆☆☆　会員の声を歓迎　！！！
ニューズレターを会員皆様の交流の場にもしたいと思っています。皆様からのご意見、投稿を歓迎いたします。

▲◈◉◍◙▣▤　編集後記　▤▣◙◍◉◈▲

今回も枚数は 21 号と同数です。しかし、8 名の方から寄稿をいただきました。スリランカの徳留さんから近況の報告がありました。ふくしまと北九州市での地域の活発な活動状況の報告は、身近な指針として役立てていきたいと思います。「東部の母親たち」というスリランカで子供を少年兵として拉致された母親たちの悲しみと子供たちへの愛がこめられた詩を即興で弾き歌われた関西の森田さんが総会に出席されましたので、寄稿をお願いしました。皆様、大変お忙しいなかありがとうございました。今回は、それぞれ豊かな内容あふれるニューズレターとなったものと多少自負しております。どうか、最後まで目を通していただければ幸いです。（大橋　祐治）

非暴力平和隊（NP, Nonviolent Peaceforce）とは……

地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際 NGO で、非暴力平和隊・日本（ＮＰＪ）はその日本グループです。

これまで世界中の平和活動家たちが小規模な非暴力的介入について経験を積み、功を収めて来ました。ＮＰはこれを大規模に発展させるために 2002 年に創設されました。非暴力・非武装による紛争解決が「夢想主義」でも「理想主義」でもなく、いちばん「現実的」であることを実践で示していきます。

ＮＰは、地元の非暴力運動体・平和組織と協力し、紛争地に国際的なチームを派遣、護衛的同行や国際的プレゼンス等によって、地元活動家等に対する脅迫、妨害等を軽減させ、地域紛争が非暴力的に地元の人によって解決できるよう、環境づくりをすることを目的としています。

ＮＰは 2003 年９月からスリランカでの活動を開始し、現在２０カ国から２５人のメンバーを派遣しています。さらに、2007 年 5 月からミンダナオで活動開始、同時期中南米のグアテマラでも緊急プロジェクトを展開しました。グアテマラ・プロジェクトは初期の目的を達成し 2008 年 2 月終了しました。